

ぞう ぞう がわ すい ろ きょう

蔵造川水路橋

中部地方の 選奨土木遺産

所在地：長野県塩尻市北小野 竣工年：1906（昭和39）年
管理者：長野県

認定理由：明治時代の鉄道建設に伴い建造された跨線水路橋で、
現存する非常に貴重な煉瓦アーチ橋である。

平成27年度登録



風雪に耐えてきた味わい深い煉瓦造の水路橋が鉄道の線路を跨ぐ



▲ 構造物の上には水路が走り、東西の農業用水システムの一部となっている。写真奥の黒い部分が蔵造川水路橋の頂部。

◀ 最近になって、こちら側（南東）から眺められるように、駐車場が設置された。

構造物の北側は土地柄凍結融解により痛み、全面的にコンクリートで補修されており、煉瓦の構造は見えない。

現在の JR 中央本線は、東京から名古屋への路線中、岡谷から塩尻へまっすぐ抜けているが、明治 39 年の開通当時は、岡谷から辰野を経由してから塩尻へ向かう路線が選択されていた。一説には地元選出の衆議院議員伊藤大八の「我田引鉄」によるとされ、「大八回り」などとも呼ばれる。このルート中に切り通しによる線路を建設する際、小野地域の用水に利用されてきた蔵造川の分断を避けるため、水路橋が設けられた。旧国鉄所有の資料によれば左右対象の 5 径間アーチ橋として建設されたが、現在は両端のアーチは土の中に隠れている。よい状態で遺っている南面には、中央の 5 巻の迫持（アーチ構造部分）や帯石などの美しい細部を見ることができる。



左 今では 3 連のアーチに見えるが、実は 5 連のアーチで作られている。隠れたアーチの一部が幸うじて確認できる。(写真：小西純一)

右 蔵造川水路橋のすぐ北に善知鳥トンネルがあり、分水嶺である峠を抜ける。蔵造川水路橋上から撮影。

